

【瀬谷区】平成 29 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 29 年 9 月 4 日 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】加納重雄議員</p> <p>【議 員： 2 名】花上喜代志議員、川口広議員</p> <p>【瀬谷区： 4 0 名】森秀毅区長、小澤明夫副区長、 里見正宏福祉保健センター長、近藤博幸土木事務所長 守屋龍一福祉保健センター担当部長、ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況</p> <p>2 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の決算</p> <p>3 平成 29 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況</p> <p>4 その他（区政 50 周年記念事業の進め方について）</p>
発言の 要 旨	<p>川口議員：「視覚障害者を対象とする福祉防災マップの作成」とあるが、 現物を見せてほしい。</p> <p>渡辺高齢・障害支援課長：本日、お渡しします。</p> <p>川口議員：災害時のペット対策については、各地区の状況が違う中でどの ように情報共有していくのか。</p> <p>鈴木生活衛生課長：災害時のペット対策については、防災拠点の防災訓練 の中で毎年 5 か所程度啓発を行っています。ペット対策には、防災拠点内 でも意見の違いがありますので、時間をかけて防災拠点内の取り決めを作 っていくという状況です。</p> <p>川口議員：ペットの避難に対して、ネガティブな意見にはどのようなものか あるのか。</p> <p>鈴木生活衛生課長：ペットより人間が優先だという意見があります。</p> <p>川口議員：防災訓練の中で、意見の食い違いから問題となるようなことは あるのか。</p> <p>鈴木生活衛生課長：いまのところ、問題となるようなことは出ていません が、丁寧に説明させていただきたいと思っています。</p> <p>川口議員：区役所内にリユースの掲示板があるが、利用状況はどうか。</p> <p>益田資源化推進担当課長：リユースの掲示板が人目を引くように、3 階か</p>

ら1階に移したばかりなので、しばらくは状況を見ていきたいと思っています。

川口議員：個人情報の扱い方によっては、利用を控える方もいるのではないかと思いますので、その点の工夫について要望しておきます。

川口議員：市の施策に、SNSのフォロワー数の多い外国の方を招待し、商店街の魅力をその方たちのSNSにアップしてもらい、外国人客の呼び込みにつなげようという企画があったが、瀬谷区の商店街が手を上げなかった理由を聞いているか。

伊澤地域振興課長：特に理由は聞いていません。

川口議員：「思春期命の大切さ啓発事業」の参加状況はどうか。

柴山こども家庭支援課長：28年度の参加は、小学校3校、中学校1校。実施回数は延べ5回、児童・生徒数379人です。

川口議員：参加した小学校、中学校を選んだ理由は。

柴山こども家庭支援課長：参加を希望した学校で実施しました。

川口議員：今年度の状況はどうか。

柴山こども家庭支援課長：現在、この4校以外では参加を希望する学校がありませんので、引き続き周知を図っていきます。

川口議員：「ひとり親世帯向け情報サイト」も素晴らしい事業だと感じています。これは情報発信のみなのか、コミュニティを作ろうとしているのか、今の状況はどうか。

柴山こども家庭支援課長：現在の中心は情報発信ですが、仲間作りという項目でコミュニティの案内をしています。

川口議員：「外国籍に関わる子育て世帯への支援」ということで、市で出している「やさしい日本語」を瀬谷区で使用しているのか。使用しているのであれば、どのように使用しているのか。

藤澤区政推進課長：「やさしい日本語」への転換はしていません。現在は外国人の方向けの情報を区役所2階の区民フロアで紹介しています。

川口議員：タブレットを使って、母国語で正確に伝えるということを横浜市は行っているが、今後瀬谷区としては「やさしい日本語」をどのように活用していくのか。

藤澤区政推進課長：外国人の方に母国語で発信している様々な資料がありますので、それを含めて「やさしい日本語」の検討を進めていきます。

川口議員：農業体験を目的に訪日し、収穫物を見ないまま帰国してしまう

外国人の方が多いので、収穫物をジャムに加工して送るような、農体験と独自産業を絡めるアイデアはあるのか。

伊澤地域振興課長：農業体験は小学校、中学校を対象としています。産業化については、農家さんの確保等、様々な問題がありますので、具体的には考えていません。

川口議員：「みずものがたり」というのは、どういうものか。

伊澤地域振興課長：地球の中で水がどういうふうに回っているのか等、水の大切さを知っていただくため、8月に実施しました。

川口議員：瀬谷区において、全国都市緑化フェアに絡めて実施した事業は、今後どのようにしていくのか。

藤澤区政推進課長：瀬谷区でオープンガーデンが非常に好評でしたので、今年の11月にはガーデニング講座を開催し、その参加者を中心に来年度もオープンガーデン事業を実施していきます。また、「上瀬谷魅力実感事業」として実施した、「海軍広場満喫フェスタ」も非常に好評でしたが、国有地の土壌調査の結果を踏まえて、また新たな展開を考えてまいります。

伊澤地域振興課長：「緑のウォーキング事業」は、3回に分けて実施し、200人を超える応募がありました。

川口議員：「瀬谷の魅力写真展事業」に応募があった150点には、瀬谷区の観光資源となる可能性があると思う。撮影した場所等の情報が入ると様々なものに活用できる。この150点というものは、高い価値のあるものだと感じている。

川口議員：「まちづくり調整事業」の中で、どういった話し合いがされているのか。

藤澤区政推進課長：旧上瀬谷通信施設の部分では、250人いらっしゃる地権者の方々を中心に、今年度中にまちづくりに向けた具体的な検討組織を作るということで、話を進めていただいています。

川口議員：今後どのように進めていくのか。

藤澤区政推進課長：秋から冬にかけて、地権者の方々が農業を生かしつつ、残りの部分で土地利用を進めていくことに合意していただけるか、地権者の方々の意向の確認が最優先ということで進んでいます。

川口議員：瀬谷区の防災マップですが、スマートフォン等ですぐに利用できて、より見やすいものになるよう、今回も要望しておきます。

花上議員：区づくり推進費の自主企画事業の執行率が97.2%ということだが、区長の感想を聞かせてほしい。

森区長：瀬谷区の自主企画事業の予算としては1億円弱ですが、かなり多岐にまたがることを区民の方々と一緒に実現できたと感じています。「こども・青少年の育成」から「共感・信頼の区役所」まで、瀬谷区の五つの分野について、それぞれの部署でしっかりと実施できたと感じています。

花上議員：旧上瀬谷通信施設の跡地利用について、政策局との協議の状況はどうか。

小澤副区長：局と区で庁内プロジェクトを作っていますが、その中に旧上瀬谷通信施設の跡地利用を考える専門部会もあり、そこで情報交換をしています。現在は、地権者との話し合いの最中ですから、個別の要望をどう反映させるのかは、これからと思っています。

花上議員：2026年には国際花と緑の博覧会を開催しようとしている中で、公共交通ネットワーク、公共インフラの整備はまったなしで進めていかなければならない段階にきていると思う。瀬谷区も区民の声をしっかり伝えなければいけないと思うがどうか。

森区長：まさにアクセスの話とか、将来の土地利用の話とか、私ども地元代表として、必要なことはきちっと言っていきたいと思っています。

花上議員：高齢者対策の話だが、「あつて～南瀬谷」と「ぽかぽかプラザ」の運営主体がNPO法人と株式会社という違いがある。この違いによって運営の中で差が出ているのか。

渡辺高齢・障害支援課長：両施設の運営主体には違いがありますが、実際の運営にあたっては地域の方による運営委員会を設置していただいています。また、区役所も運営委員会に入って事業の進め方を検討しています。いずれにしても、地域の中に拠点があるということが非常に重要なことだと考えています

花上議員：「自殺対策啓発講演会・研修」は、どういう内容だったのか。

渡辺高齢・障害支援課長：昨年10月8日に公会堂で開催しました。自殺にいたる過程で精神を病む方が非常に多いということから、「うつ予防」ということで実施しました。講師は、国立精神・神経医療研究センターの大野裕先生。またパネルディスカッションでは、NHKのドラマにもなりました「ツレがうつになりまして」の作者である細川貂々さんと実際にうつになられた旦那さんにもおいでいただきました。全体的には、うつ

の予防について、啓発を進められたのではないかと思います。

花上議員：新学期が始まりましたが、学校現場においても、自殺の問題が深刻な話になっている。自殺までいたらなくても、不登校になるようなケースも多くあるのではないかと。学校現場での自殺防止の状況はどうか。

金子学校連携・こども担当課長：泉、瀬谷、旭、保土ヶ谷区という西部エリアでは、自殺にいたるものはありませんでした。学校現場としては、教育相談ということで、個別に子供達から相談を受けたり、7日以上の不登校の子供がいる場合には、家に訪問するというようなケアをしています。また、学校カウンセラーが各学校にいますので、休み期間中も気になる子供には電話をし、「体調はどうですか」「学校に行けそうですか」というような話をしていると聞いています。

花上議員：特定健診の受診率はどのくらいなのか。

高橋保険年金課長：特定健診の対象者は、国民健康保険に入っている方で、なおかつ40歳から74歳までの方です。瀬谷区の受診率は19.3%です。

花上議員：他区と比べてどうなのか。

高橋保険年金課長：28年度の全市平均が20.91%なので、瀬谷区の受診率は低いという状況です。

花上議員：受診率を上げるために、何か対策は講じているのか。

高橋保険年金課長：平成27年度から区づくり推進費の中で、受診勧奨のためのチラシを作成し毎年11月頃に特定健診未受診者に送付しています。

花上議員：放課後児童対策で「はまっ子ふれあいスクール」「放課後キッズクラブ」「放課後児童クラブ」を統合していこうという動きがあるが、現在の三つの放課後児童対策の状況はどうか。

金子学校連携・こども担当課長：瀬谷区内には11校ありますが、すでに7校が「はまっ子ふれあいスクール」から「放課後キッズクラブ」に転換しています。残りの4校が「はまっ子ふれあいスクール」という状況ですが、随時32年までには、残りの4校も「放課後キッズクラブ」に転換していくことで、地域の方からも反対はありません。「学童クラブ」に関しては、少人数できちっと手をかけてほしいという方達の一定の需要があるので、「学童クラブ」と「放課後キッズクラブ」の共存という形で瀬谷区では進んでいる状況です。

花上議員：区民提案型事業の予算残の原因が申請件数の減少ということだが、申請件数が減少した原因はなにか。

伊澤地域振興課長：当初予算では申請件数を 25 件と見込んでいましたが、実際の申請は 24 件でした。件数的には 1 件の減でしたが、申請団体に交付する補助金の額が、事業規模により 10 万円から 50 万円までの幅があり、昨年度は比較的事業規模が小さい団体からの申請が多かったことから、結果的に予算が残ってしまったということです。地域の課題解決、活性化のためには、こういった団体の自主事業を支援していくことが大事だと思いますので、引き続き PR 等に努めていきます。

花上議員：最近、病原性大腸菌 O157 などの事故が伝えられており、飲食店関係者の方々が非常に神経質になっている。飲食店関係者と区役所とで、どのような話し合いをしているのか。

鈴木生活衛生課長：今年は O157 が横浜市をはじめ、全国的に多く出ており、瀬谷区内でも患者さんが出ている事例もあります。飲食店については、定期的に監視をし、同時に飲食店組合、飲食店協会を通じて啓発をしています。また飲食店での講習会などの場で生肉等の注意、指導をしています。

花上議員：瀬谷区内での認知症の実態はどのような状況なのか。

渡辺高齢・障害支援課長：現在、全国の 65 歳以上人口の 7 人に 1 人程度が発症していると推測されています。また 2025 年には 65 歳以上人口のいたい 5 人に 1 人が認知症を発症されるのではないかと予測を立てています。早期発見、早期着手ということでは開業医の先生方との連携、またキャラバンメイトさんのように地域の中で認知症の研修会をやっている方を含め、認知症予防の啓発を進めていくことを第一に考えています。

花上議員：瀬谷の魅力を発掘していく努力をしていくことが大事なことだと思う。海軍道路の由来を正しく伝えるため、環状 4 号線に由来板を設置したことは非常に良いことだと思う。今後も瀬谷区の魅力を掘り起こしていくことが大切だと思うがどうか。

伊澤地域振興課長：海軍道路の由来板も地域の声を踏まえて設置したものです。今年度はガイドマップのコースに載っている道標とか、由来板の現況調査等も予定しています。また地域の方や団体からいただいたものも反映できるように検討していきたいと思います。区制 50 周年等もいろいろなことを考える機会になると思います。

花上議員：商店街の賑わいを取り戻すために、いろいろなイベントを行っているが、一過性のものでは賑わいは取り戻せない。行政の支援を含めて、

商店街全体の賑わいを取り戻す方法を考える必要があると思うがどうか。
森区長：商店街の会合に出たときにも、商店街が寂しくなっているという話をよく聞きます。七夕灯籠祭りのようなときには、非常に多くの人が出てきますが、普段は寂しいと感じるのが実態です。商店街の活性化は私も強く思っていますので、区制 50 周年を契機として何かできればいいと思っています。

花上議員：区づくり推進費の予算編成を行う基本的な考え方について教えてほしい。

森区長：区づくり推進費を大きく 5 分野に分けて実施しておりますが、それぞれの分野の予算を作る上で大切なことは、やはりスクラップアンドビルドだと思っています。これまでの事業を見直して、やるべき事業と使命をはたした事業を整理し、新しい事業に取り組むべきと考えています。上瀬谷通信施設も返還され、今後再開発も進みます。神奈川東部方面線の相互乗り入れに向けた工事も進んでおり、瀬谷区にもいろいろな動きがでてきます。この動きをうまくとらえて区の活性化に寄与するような仕掛けを区制 50 周年ともからめて考えて行きたいと思っています。そういう意味では、「魅力の創出・区民協働の推進」といった分野に少し重点をおきながら、他の 4 分野の必要な事業にもきちんと予算を付けていきたいと思っています。

加納議員：4 月から瀬谷区に異動してきた方の感想を聞かせてほしい。

野田福祉保健課長：本郷地区を担当していますが、とても気持ちの温かい地区だと思っています。瀬谷区は面積も小さい区なので、区民の方も区の職員も力を結集し協力しながら問題を解決していく区だと感じています。

加納議員：前回、「ハマ弁」を食べてほしいと話をしたが、食べた感想を聞かせてほしい。

金子学校連携・こども担当課長：部長級以上はすでに食べていますが、課長級以上は来週食べられるように手配をしています。区長、副区長からは、「僕たちの世代ではいいけど、中学生にはどうかな」という感想をいただいています。私もダイエットメニューには良いけれど、子供達にはどうなんだろうかと、ちょっと聞いてみたいと思います。

加納議員：近藤土木事務所長はどうですか。

近藤土木事務所長：メニューは多岐にわたっていて、いいなと思いました。牛乳等、全部の組み合わせで 470 円ということなので、そのところが改

	<p>善されるのと、学校の先生がもう少し食べるようになれば、ハマ弁を頼むことを恥ずかしいと思う生徒も少なくなるのではないかと思います。</p> <p>加納議員：消防署と土木事務所の事業で、個性ある区づくり推進費で実施しているものはあるのか。</p> <p>近藤土木事務所長：土木事務所の事業は局からの配付予算で実施しています。</p> <p>八剱消防署長：基本的には、局からの配付予算で実施していますが、個性ある区づくり推進費で実施している「地域防災関係事業」を区役所と連携して行っています。</p> <p>加納議員：福祉保健センターの事業報告は全ての区で作成しているのか。</p> <p>里見福祉保健センター長：以前は 18 区に保健所がありましたので、その時代には各区でこれと同様なものを作っていました。</p> <p>野田福祉保健課長：事業報告については、各区でまとめていると思います。ただ、体裁等は各区いろいろだと思います。</p> <p>加納議員：前年の課題とか、その課題に対してどう対応したのかとか、新規事業を始めた原因とか、いろいろ聞きたいことがあるが、時間の関係もあり、聞くことが難しいときには、ある程度この参考資料で分かる。大変だと思うが、皆さんが 1 年間やってきたことを土木事務所、消防署も含めて見える化にしてほしい。福祉保健センターもまとめるのが大変だったと思うがどうか。</p> <p>野田福祉保健課長：各課の皆さんに御協力をいただいて作成しています。</p> <p>守屋福祉保健センター担当部長：私も何区か経験していますが、瀬谷区は内容が充実しています。取りまとめは福祉保健課ですが、項目をきちんとそろえるのが大変だと思っています。</p> <p>加納議員：1 年間やってきたものを確認できるもの、評価できるものとして、参考資料を作成していただくことを要望とします。</p> <p>花上議員：区制 50 周年記念事業の実行委員会での話を我々議員に報告してもらえらという話だが、この実行委員会に我々が顧問のような形で入れるのか。</p> <p>藤澤区政推進課長：実行委員会の立ち上げに向けて、メンバーの選定を議論していただくときに、事務局からそのような方向で、提案したいと思います。</p>
備 考	

